

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 寒川町立寒川中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実施内容

■期 日 : 2020年11月10日(火)

■ク ラ ス : 2年1組(31名)

■オリンピアン : 中山 英子 先生(スケルトン)【出場オリンピック/ソルトレークシティー大会、トリノ大会】

■授業のながれ: 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・オリンピックは他の大会とは違い、ただ勝てばよいというだけではなく、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」という3つの価値があり、運動の時間でも、このオリンピックの価値を3つの約束事として取り組もうと、授業の目的を伝える。スケルトンのスタートダッシュの姿勢を体験してもらうため、同じような姿勢を取り、雑巾を使って挑戦してみようと話し、全員で体験する。

2. 準備体操



3. 主運動



・新聞でボール運びリレー(全2回戦)を実施。2班1チーム、3チームの対抗戦とし、タイムで順位を決める。コーンを回って戻ってきた後、手を使わずに次の組の新聞紙の上にボールを乗せ、ボールが乗ったら次の組がスタートする。ボールが落ちたり、新聞紙が破れたりしないように工夫しながら、全員がゴールするまでのタイムを競う。

4. まとめ



・運動の時間の最初に話した、ベストを尽くす、皆で協力する、ルールを守るという3つの約束が、この時間では守れたか、もう一度考えてみよう。3つの約束はこれからの学校生活においても、意識することでどんなことができるか、どんな良いことがあるか等、次の時間に話すと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・スケルトンを始めたきっかけは、大学卒業後、地元の新聞社に入社し、長野大会を取材、自身も挑戦したところ、競技特性と自分の身体的な特徴との相性が良く、一気にのめり込んだ。夢や目標に向かう過程で、苦しいと感じる時は必ず訪れるが、真剣だから苦しいのだと前向きに考えることで次に進める。そのような意識を日々積み重ねていくことが、将来に繋がっていくはずであると話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. 個人ワーク



発問①：運動の時間にオリンピックバリューを意識できたか考えよう。

発表：「チームで話し合い、苦手を見つけ、ベストを尽くすことができた。」「負けたことをぐちゃぐちゃ言わず、前向きな意見交換ができた。」等

発問②：コロナ禍、生活環境が変わる中で感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「部活動ができない中、家事の手伝いをしながら筋力トレーニングをした。」等、フレンドシップ：「自粛中は人と関わることが無かったので、学校が落ち着く場だと感じた。」等、リスペクト：「消毒や外出を控える等、ルールを守って生活をしていた。」等

4. まとめ



・もうすぐ始まる期末テストや、毎年この学校で行っている百人一首大会に向けて、ぜひ、オリンピックバリューを意識して取り組んで欲しい。ベストを尽くした結果が点数に繋がれば最高だが、そのためどのような行動を取るかが重要。自分がどうしたいかをイメージし、それに対してベストを尽くす、友達と協力し合う等、考えて過ぎて欲しいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2020年11月10日(火)

■ク ラ ス : 2年2組(31名)、2年3組(29名)

■オリンピアン : 三井 梨紗子 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング 現:水泳/アーティスティックスイミング) 【出場オリンピック/ロンドン大会、リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、2016年リオデジャネイロ大会の翌年から、シンクロナイズドスイミングがアーティスティックスイミングに名称が変わったと説明。今日は2時間の授業を通してオリンピックバリュー、「エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト」の3つの言葉を覚えて欲しい。運動の時間は特に、「明るく・元気に・全力で」取り組んでほしいと伝え、準備体操は、音楽に合わせて動いた。

2. 準備体操



3. 主運動



・新聞でボール運びリレー(全3回戦)。ルール説明後、1回戦開始。それぞれ終了後に作戦タイムを設け、3回戦終了後、結果を発表。作戦について尋ねると、走る順番を替えた、ボールを渡す際の走り抜けの方法を変えた、ボールを丁寧に渡し、カーブを丁寧に曲がった等、各チームが発表した。



4. まとめ



・回数を重ねる毎にタイムが速くなり素晴らしいと生徒の頑張りを称え、運動の時間の最初に話した「明るく、元気に、全力で」を実行できたかを聞き、できた人は拍手で返事をした。この後の座学の授業では、3つのオリンピックバリューについて詳しく説明する、運動の時間に実施したことを座学の授業の個人ワークで書き出してもらいため、覚えておいて欲しいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・運動の時間に触れた、3つのオリンピックバリュー(価値)、エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」「信頼」「お互いを理解する」「チームワーク」、リスペクト：「敬意/尊重」「フェアプレー」「感謝」「チームを取り巻く環境への配慮」、それがどんな価値があるのかを自身の経験を通して話すので、皆も考えて欲しいと、授業の目的を確認。

3. 個人ワーク



発問：運動の時間を振り返り、どんなことにオリンピックバリューを意識したかを考えよう。

発表：エクセレンス：「チームの皆でアドバイスし合い、目標を作って走れた。」等

フレンドシップ：「左右を変えて、速い人が外側に行くようにした。」「チームで協力して1分を切る事ができた。」等

リスペクト：「相手にスピードを合わせる等、お互い敬意を払いながら行った。」等

4. まとめ



・日常生活を振り返る機会はないと思うが、個人ワークを行ったことで、普段のような行動を取っているか考えることができたと思う。オリンピック教室を通して、このクラスの活気や、皆で意見交換し合えるチームワークの良さを感じることができた。これからもオリンピックバリューを忘れずに、学校行事やテスト勉強に臨む際も、ベストを尽くし、仲間と一致団結して、フェアプレー精神を大切に頑張りたいと伝え、授業終了。

■ 修了証贈呈

